



水面で遊ぶハクチョウ

法人会は「企業の発展を支援し、地域の振興に寄与する経営者の団体」！

消費税期限内納付

法人会 一声運動

会員増強運動実施中

会員の皆様には、是非、1社につき新規会員1社獲得を目標に
あなたのお仲間企業を会員に！

新潟市中央区西堀通
3番町258番地24
新潟法人会
電話 (223)-1242
FAX (225)-5699



役にたつホームページ

あけまして おめでとうございます

－ 2024年新春対談 －



新潟法人会

会長 坂井 克敏

新潟税務署長

田中 豊 氏

—— あけましておめでとうございます
います。

本日は、田中署長と坂井会長の
新春対談をお願いいたします。

2023年を振り返って、ご感想などをお話したいと思っています。最初に田中署長からお話
いただきたいと思っています。よろしく
お願いいたします。

署長 年が改まり、新しい年、
2024年となりました。

まずは、能登半島地震の影響が
広範囲にわたっており、新潟法人
会会員の皆様やご家族、ご親族の
中にも、影響を受けられた方がお
られると思います。被災された
方々に、心からお見舞い申し上げ
ます。

また、復旧・復興に向けて取り
組まれておられる方々に対し、深
く敬意を表しますとともに、一日
も早い復旧・復興がなされますこ
とを心からお祈り申し上げます。

昨年中は、坂井会長はじめ、会
員の皆様には、格別なご理解とご
協力を賜り厚くお礼申し上げます。

2023年を振り返りますと、
私事で大変恐縮ですが、2023
年は驚きの一年であったと思っ
ています。

というのは、私どもの職場は7月が定期人事異動の時期となりますが、その予告で、転勤先を新潟税務署と告げられ、全く予期していなかった、想定外の勤務地に驚いて、全く反応できなかったというか、聞き間違いかと暫くの間理解できない状況でしたからです。

一昨年後半から昨前半に、頻繁に新潟県を訪れる機会があり、新潟県の魅力に取りつかれていたこともあり、驚きではありましたが、大変感激したこともありました。

昨年の夏は異常な猛暑ではありましたが、新天地を大いに満喫させていただきました。引き続き、新潟ライフを大いに楽しみたいと思います。

世の中に目を向けますと、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、2類から5類に引き下げられたことで、世の中の動きが活発になったと感じています。

そのお陰もあって、コロナ禍で見送ってきた、関係団体の皆様と私ども税務署との懇親会を開催することができ、皆様方と前広な意見交換ができたことは非常に有意義であったと思います。

また、小学生の税に関する絵は

がきコンクール等の税に関する優秀作品受賞者を全員、納税表彰式にお呼びして、表彰することができたのもよかったと思っています。

会長 私からも1月1日に発生しました令和6年能登半島地震により被害を受けた皆様にご挨拶とお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

年初より大きな災害・航空機事故が続き、大変心が痛む年始めとなりました。田中署長はじめ新潟税務署の皆様、新潟法人会の会員の皆様にとつてこれからの1年が平穏無事で、実り多い1年となりますことを心からお祈り申し上げます。

さて、私も田中署長と同様2023年は異動があり、6月に新潟法人会の会長職を拝命致しました。法人会を通しての新しい出会いに感謝致しますとともに、今また改めてその責任を噛みしめ気持ちを新たにしているところです。

おかげさまで昨年は新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行してからの着任でしたので、法人会の活動もほぼ計画通りに行われ、会員の皆様との交流も行うことができました。大変ありがたく思っています。

また、納税表彰式には私も参加させていただきましたが、参加者の心が温かく感じられるとても良い式でした。法人会としても引き続き絵はがきコンクールの活動には、力を入れていきたいと思っています。

—— 近年、社会経済情勢は大きく変化しており、また税を取り巻く環境も絶えず変化し続けていると思います。この状況下において、法人会の更なる飛躍に向けて、今後の課題などについてお話いただきたいと思っています。

署長 新潟法人会は、会員の皆様の税に関する知識の習得のための各種情報の発信や、研修会を開催することに加えて、租税教室の開催や税に関する絵はがきコンクールの実施など、広く社会に向けて税の啓発活動や企業の税務コンプライアンスの向上のために積極的に取り組んでいただいております。引き続き、地域全体の納税思想の高揚に向けて、積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

近年は、新型コロナウイルス感染症への対応も相まって、あらゆる分野でのデジタル化が急速に広まっています。デジタル化が広ま

ることは、企業にとっても、単純誤り防止による正確性の向上や、業務効率化による生産性の向上等につながることも期待されます。

国税当局といたしましては、昨年6月に公表した「税務行政のデジタル・トランスフォーメーション」税務行政の将来像2023」に従い、「あらゆる税務手続が税務署に行かずにできる社会」という将来像に向けて、e-Taxの利便性の向上やダイレクト納付等のキャッシュレス納付の推進、相談チャネルの充実を図りつつ、税務行政のDX化を更に進めていくこととしております。

新潟署のe-Taxやキャッシュレス納付の利用率等が当局管内の平均や、新潟県内の他署に比しても低調であり、更には、新潟県全域がやや低調であることから、あくまでも税務手続に関してですが、新潟県全体のデジタル化が遅れているのではないかと危惧しております。

まずは、新潟法人会におかれましては、国税当局の取組にご協力をいただくことで、会員企業における業務のデジタル化を促し、地域の事業者の皆様が、デジタル化

による生産性の向上や、それによるメリットが享受できるようなご支援をお願い申し上げます。

また、新潟法人会会員の皆様におかれましては、主宰する法人の法人税等の申告の、財務諸表等の添付書類を含めたe-Taxの利用と、ダイレクト納付を活用した源泉所得税の納付に、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年10月から、いわゆるインボイス制度が開始したわけですが、制度が開始後にあっても、相当数の方がインボイス発行事業者の登録申請しているほか、いまだ、インボイス発行事業者に登録すべきか、と検討されている方がいるといった話を伺います。

国税当局といたしましては、引き続き、登録要否についての個別相談や各種説明会・研修会への講師派遣等の対応を行ってまいりますので、新潟法人会におかれましては、地域に密着した取組としてのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長 近年法人会が直面している課題は、会員数の継続的な減少への対応です。特に新型コロナウイルス感染症流行後は、業績の悪化に伴う経費削減や廃業が退会理由

の多くを占めています。退会数を減らすことは困難かもしれませんが、会員数の増強のためには、真に会員企業の皆様のお役に立ち、地域社会に貢献していくことにより新規の会員企業数を増やしていくことが重要だと感じています。

そのための一つが、田中署長がおっしゃった納税事務のデジタル化やキャッシュレス化による生産性の向上・事務の効率化を進めるためのサポート活動の充実かもしれません。法人会ではe-Taxやダイレクト納付を活用しており、その利便性を十分承知しています。新潟税務署の皆様と一緒に更には会員企業様にとって有用な情報の提供に努めていきたいと思っています。

また、「会員企業を守りたい」との思いで、福利厚生制度協力保険会社3社と連携し、福利厚生制度への加入者、新規会員の増強に努めて参ります。

—— 新年に当たり、田中署長と坂井会長が決意されたことや今年の抱負をお聞かせください。

署長 新潟市に来て半年が経過しましたが、まだまだ新潟を十分に堪能したとは言える状況にはありません。

また、これまでも新潟の美味しいお酒や、美味しい料理を食べさせていただきましたが、引き続き、「健康管理」・「適正飲酒」に配慮しつつ、もつともつと存分に新潟を楽しみたいと思います。

仕事の面では、地域の皆様からの税務行政に対する信頼を確保するとともに、適正・公平な課税・徴収の実現に向けて取り組んで参りたいと思います。

併せて、地域の重要な地場産業である酒類製造業について、より多くの方に、興味・関心を持っていただけるよう情報発信をしていきたいと思っています。

会長 法人会の理念に立ち返り、税のオピニオンリーダーとして企業の発展を支援し、地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献するために法人会として何ができるのか、何をしなければならぬのか真摯に追いつめる1年としたいと考えています。インボイス制度の定着に向けたサポートはもちろん、各種積極的な働きかけ、取組みを行いたいと思っています。

私個人としては、年男でもあり健康に留意して1年を過ごしたいと思っています。上越の出身です

ので、この冬はスキーをしたり、暖かくなつてからはウォーキング等を行ったりして、健康維持に努めていきたいと思っています。

—— 最後になりますが、田中署長から何かありましたら一言お願いいたします。

署長 もうすぐ令和5年分の所得税等の確定申告等が始まります。国税当局といたしましては、スマホ申告をはじめとした、自宅からのマイナンバーカードを利用したe-Tax申告を推奨しているところです。

是非、従業員の皆様にスマホ申告等の、自宅からのe-Taxによる申告をお勧めいただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

新潟法人会会員の皆様にとりまして、健康で良い年となりますよう心から祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

—— 田中署長、坂井会長には貴重な時間をいただき感謝いたします。

会員企業の皆様にも、本年が実り多き年となりますよう心から祈念致しまして新春対談を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

確定申告は

マイナンバーカード×e-Tax

でさらに便利！

- ✓ スマホやパソコンで
- ✓ 「確定申告書等作成コーナー」から申告書を作成して
- ✓ マイナンバーカードを使ってe-Taxで提出♪

◆ 確定申告書等作成コーナーを利用すると…

自動計算で確定申告書を作成！

画面の案内に沿って金額等を入力するだけで作成完了



作成コーナー



マイナポータル連携について詳しくはこちら



注目！

◆ さらに、マイナンバーカードを利用すると…

マイナポータル連携で自動入力

控除証明書等のデータを自動入力できるので、集計や入力の手間が不要

※ご利用には事前準備が必要です。証明書等のデータが自動入力できるようになるまで一定の時間がかかりますので、確定申告前にお早目のご準備をお願いします。



e-Taxの5つのメリット

令和4年分の確定申告をした方のうち、
3人に2人が
e-Taxで申告しています！

税務署への持参
不要



印刷・郵送代
不要



添付書類
提出不要

※一部の書類は除きます



確定申告期間
24時間利用可能

※メンテナンス時間を除きます

早期還付
(3週間程度で還付)



書類提出の場合は
1か月～1か月半程度で還付

～困ったときはこちらで解決～

動画で見る確定申告

申告書の作成方法などを動画でご案内！



- ・医療費控除
- ・住宅ローン控除
- ・マイナポータル連携

など

確定申告 動画



チャットボット

ご質問を入力いただければ、AIを活用した「税務職員ふたば」が回答！



税務職員ふたば

作文コンクール

【新潟法人会長賞】

「八円、足りない」

新潟高等学校

二年三組 板屋越優佑^{いたやしゆうすけ}

ある暑い夏の日。祖母からもらった一枚の百円玉をぎゅっと握りしめ、私はルンルンと歩いていた。

向かっていたのは、行きつけの文房具屋さん。鉛筆を切らしていたことを思いだしたのだ。たまたま百円ちょうどの鉛筆三本組があったので、それを手に取った。レジで支払いをしようと百円玉をトレイに出した私に、いつもの店長さんが、微笑みながら優しく教えてくれた。

「実は、この鉛筆は消費税込みで一〇八円なんだよ。」

あれ……。値札には確かに「一〇〇円」と書いてあったはず。そもそも、「消費税」って一体何なんだろう。戸惑う私に店長さんは、「いつもお母さんと

一緒に来ているから、分からなかったみたいだね。暑い中せっかく来てくれたから、今日だけは特別に、百円で買っ

ていいよ。」と、私に鉛筆を渡してくれた。ありがとうございます、と店長さんに何度も深く感謝を告げ、私はその場を去った。家に帰るとすぐに、私は母に「消費税」について聞いてみた。

「消費税は、お買い物をするときに、少し多めに支払うお金のことだよ。税のおかげで、みんな教科書を使って勉強ができるんだ。」

今となってみれば分かりきったことだが、当時の私は、母の言ったことについてあまりよく理解していなかった。今、改めて考えてみると、税制はとてもよく整えられている優れたシステムだと思う。消費税についていえば、国民全員から公平に集めることができるものだ。集まった資金の活用は、教育の場のみならず、医療の場・道路整備・上下水

道の整備など、多岐にわたる。誰にとっても不可欠なものの整備はもちろんのこと、「富の再分配」など、低所得者や生活困窮者への配慮や、「児童扶養手当」など、子どものいる家族への配慮がなされているのも、とても魅力的だと思う。

そんな中、当時の私が幼いながらに持っていたのは、「教科書が無くなってしまうのは嫌だ」という強い思いだった。教科書の裏表紙に書かれている「無償」という言葉が、「無料」とは違うのだということを知った瞬間だった。私たちは、数え切れないほどの多くの人たちに支えてもらいながら、勉強ができているのだと分かった。すでに当たり前のように周りにあるものを当たり前と思わず、全ての事物を大切に、大切に扱っていききたいと思った。次の日、朝起きてすぐに、貯金箱から「八円」を取り出し、急いで家を出た。顔も名前も知らないたくさんの人への感謝の気持ちを噛み締めながら。

「税についての

【新潟法人会長賞】

「謙信公武道館と税金」

坂井輪中学校

三年四組 本間 朱夏

私は剣道部として活動し、三年間で試合のときに様々な体育館を使ってきた。二年生の県大会で初めて謙信公武道館を使った。他の体育館はバスケットやバドミントンのラインがあったので、試合前にそれを消す作業がとても大変だった。試合中にテープが足にひっかかることもあった。でも、謙信公武道館は剣道用に造られた施設だから試合前にラインを消す作業がなく、試合中にテープが足にひっかかることもなく、床がやわらかくてふみこみのときに足や腰が痛くなることがなく、試合に集中することができた。

今回、社会で税金の勉強をして、謙信公武道館は税金で造られていると知った。他にも、教育やごみの処理、

金がかからないのは、税金がその経費を担っているためである。

災害からの復興にも税金が使われているようだ。教育では、公立学校は、教育費が税金で払われている。校舎や、体育館など、普段当たり前に使っている学校の設備もほとんどが税金でつくられているようだ。ごみの処理では、ごみ収集車のごみを回収し、処分施設まで運搬できるのも税金によって行われている。海岸にプラスチックや流木などの多くのごみが流れつく。このごみなどの回収や処理も税金で行われている。災害からの復興で、地震の時、建物や道路、電柱が壊れたら直すのも税金の役割である。火災の時に、家が燃えたら消防車や、警察を呼ぶのにお

私の今までの税金のイメージは、何かものを買っても、消費税で値段が高くなるし、親が働いて貰ったお金も、そこからいろいろなとられるというイメージだった。しかし、税金の勉強をして、学校生活や環境に役立っていることが分かり、消費税などで少しでも、国に協力できていると知った。また、私が納められる税金の種類は少ないけれど、大人になったら自分が払える税金を払うことはもちろん、お金で社会に貢献するだけでなく、ボランティアなどを通して社会に貢献できる大人になりたい。私の生活は税金によって支えられている。

納税表彰式

令和5年11月14日にホテルイタリヤ軒において、「納税表彰式」が開催されました。

税務署長表彰、国税庁長官感謝状受彰、税に関する作文コンクール、税に関する絵はがきコンクールなど様々な分野で表彰・受彰された方々へ、賞状・記念品が授与されました。新潟法人会関連で表彰対象となった方々は以下の通りです。

税務署長表彰

村瀬 昌志 氏

(株)いりやまと

国税庁長官感謝状受彰団体

(租税教育の推進)

公益社団法人 新潟法人会



税に関する作文コンクール

新潟法人会長賞

本間 朱夏 さん

新潟法人会長賞

板屋越優佑 さん

新潟県立新潟高等学校

新潟県立新潟高等学校

坂井孝乃介 さん

新潟市立亀田小学校

田中李緒菜 さん

新潟市立上山小学校

木伏 夏菜 さん

新潟市立黒崎南小学校

田中 萌 さん

新潟市立五十嵐小学校

須貝 和奏 さん

新潟市立亀田小学校

新潟市立亀田小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校

新潟市立五十嵐小学校



令和5年12月7日にANAクラウンプラザホテル新潟において、一般社団法人新潟県法人会連合会と共催による年末特別講演会・懇親パーティーが開催されました。

特別講演会は、経済アナリストとして活躍の株式会社マネネCEOの森永康平氏より、「日本経済の現状と展望」と題してご講演いただきました。国による信用創造、「スベンディングファースト」というご提言などとても興味深いお話でした。

講演会後の懇親パーティーには、新潟法人会から100名を超える皆様にご参加いただき、師走のひとときを賑やかに過ごす大変盛大なパーティーとなりました。

年末特別講演会・懇親パーティー



シリーズ

人にいがた発見

このシリーズは新潟発で活躍されている方々をご紹介します。

「製菓業から米業へ

ライスインベシヨンカンパニーを目指す」

亀田製菓株式会社

代表取締役会長 CEO

ジュネジャ・レカ・ラジュさん



プロフィール

1984年、大阪大学工学部に微生物学の研究員として来日

1989年、名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程を修了

同年、太陽化学株式会社に入社

2003年、代表取締役副社長に就任

2014年、ロート製菓株式会社に入社

同年、取締役副社長兼最高健康責任者（CHRO）に就任

2020年、亀田製菓株式会社代表取締役副社長に就任

2022年、代表取締役会長 CEOに就任

—— 本日は亀田製菓会長のジュネジャさんにお越しいただきました。ジュネジャさんはインドの出身でいらっしゃるようです。最初に現在に至るまでの道のりを教えていただけますか？

私は大学、大学院までインドで、微生物学を専攻していましたが博士課程の途中で醗酵関連の企業に就職することになりました。そして84年日本に留学することになったのです。—— 当時、インドから日本への留学生というのは多かったのですか。

インドは英語圏ですから留学先は米国や欧州が多く、そのときも日本に留学したのは私1人でした。悩みましたが、日本から帰国した先輩から「これからは日本ですよ」と勧められました。確かに当時の日本の高度成長は目を見張るものがありました。大阪大学で醗酵工学の研究員として学び、更に名古屋大学大学院で博士課程を修了し、卒業後は太陽化学に就職しました。

—— 太陽化学ではどのようなことに取り組まれたのですか。

卵とか、お茶のカテキンやテアニンなどについて研究しました。

卵の中にはタンパク質、脂質、などの栄養素が入っていて、成分が毎日変化するんです。それが生命の力ですね。それを私たちは食べている。その卵からいろいろなものを取り出して、医薬品にしたりしました。

—— 太陽化学からロート製菓に移られましたね。

太陽化学では40歳ほどで代表取締役になり、これで人生が終わっていい



のかと思ったのですが、ロート製菓会長の山田邦雄さんに会って、「もう一回、人生に挑戦しませんか」と説得されて、入社することになったのです。

ロート製菓時代は、世界中に目薬やスキンケア用品を販売しました。アフリカやアジアへ、市場開拓に行ったりもしました。

後に健康経営責任者（CHRO）もやりました。今、亀田製菓でやっていることもそうですが、食を通しての健康というのがこれから、もっと大切になってくるでしょうね。

もうひとつ今、世界中で注目されている事が、環境ですね。インドではバナナの葉を器として使っていましたし、直接、手で食べるからプラスチックのスプーンもフォークも不要。亀田製菓でもかねてより、プラ



スチック削減に努めています。おいしさと感動と、健康と環境がこれからの世界企業の責任であり役割ですね。

—— 亀田製菓に移られたきっかけというのは？

最初は、亀田製菓の方とお会いして、いっしょに食事をするようになったのです。工場を見に来ませんかと誘われたりしていたのですがそのうちに「うちに来ませんか」と誘っていたのでした。正直、ご縁なのでしょう。新型コロナウイルスのときでした。亀田製菓に副社長として入社いたしました。

当時の社長の事もよく知っていましたし、柿の種も大好きでした。(笑)改めて見直しても高いポテンシャルを持っている会社だと認識していました。

今、我が社をはじめ米菓業界全体が決して順調ではなく苦しんでいると思います。ですから今こそ、人を大事にする、時代に合った変化、つまりイノベーションを起こすことが大事なんだと思いますね。こんな時に、私が新潟に来たのも、何かの縁だと思っていますね。

—— ご縁とおっしゃいましたが、入社を決めた手はなんだったのですか。

私の大好きな言葉に「一期一会」があります。だから、ネットワークなども大切とは思いますが、私は、その瞬間や、機会を逃さないということに大事にしているのです。

それは、運命かもしれませんし、日本が大好きだったこともあるかもしれません。今は日本の食も大好きです。来日した当初は、本当に生のままでも何も調理しないで食べているのには驚きました。これよりシンブルな食べ物世界でもないのではと思ったほどです。

インドで濃い味、スパイスの味に慣れている人にとっては最初、刺身のタコを見て、「うわーっ」となる。でも、だんだんおいしさと食感が分かってくるんです。日本語には食感を表す言葉が445くらいあると言われています。英語だと77語しかないそうです。私は海外の方々に日本の技術の凄さを説明するとき、この食感の表現の細かさを説明します。日本の食も、モノづくりも最高ですよ。

そして、亀田製菓グループが持っている米の加工技術も世界一だと思っています。

—— 御社グループが掲げる「ライ

スイノベーションカンパニー」について、分かりやすく教えてください。今まで米は、おいしさと感動を与えてきました。これからはもう一つそこに、健康をプラスしましょうということです。

今、アレルギーで困っている子どもがたくさんいます。小麦もアレルギーの一種として食べられないというケースはよくあります。でも、米はアレルギーが少ないんですよ。グルテンも入っていない。神様が私たちに与えてくれた最高の食品だと思います。卵をはじめ動物性食品の中には多くのアレルギーが存在しますよね。

でもお米は多くの人が食べることのできる食品なんですよ。

—— まさにライスイノベーションですね。

グループ会社で作っているのですがパッケージを開け、お湯を入れると、15分でそのままにぎりになる商品があります。おいしいし、5年間保存できる長期保存食です。これなどは最先端の技術ですよ。

また、いろいろなプラントベースフードにもチャレンジしています。例えば代替肉、今は大豆を使っていますが、これを米を使ってできないか研究に入っています。私たちのグループは、どこにも負けない世界一の米の加工技術を持っているのです。

—— ところで亀田の商品で、会長が一番好きなものは何ですか？

私が一番好きなのは「亀田の柿の種」ですね。今は、いろいろな味の柿の種があるのですが、私は梅しそが

好きです。世界各地の地域限定でさまざまなフレーバーの柿の種を販売しています。実際、インドの柿の種KARRIはとても好評です。

—— テレビで拝見しました。

これはおいしいです。今、大手航空会社でも採用されています。

—— 今、アメリカにも工場があるようです。今後さらに世界中に拡大していくため、まだ馴染みのない国に進出していくためには、どのようなことに取り組まれているのですか。

中国、ベトナム、カンボジアなどはなかなか魅力的な地域ですし、大きな可能性を感じています。又、ヨーロッパにはまだ工場がありません。これからの世界進出への課題と言えるでしょう。

今、社員には「世界に通用する食品を作りましょう」と、言っています。大きな市場である中国へは、今





は直接、新潟からは輸出できない。ほかの国でも材料等で、この成分はダメ、あの成分はダメと言ったいろいろな問題が出てきます。それは最初から日本の人や市場しか考えずに商品を作っているから。世界を考えて商品を作っていないのです。

——なるほど、最初から世界を考えて商品を作ろうと。

だから私どもでは「GRIC（グ

ローバル・ライスイノベーションセンター）」を設立しました。一人の責任者が、国内も海外も兼務してやろうと考えています。

米菓は、リソースは全部、日本国内にあります。そうすると、調達も国内で全てやるのですよ。本部もそう、経営企画もそう。みんなそれぞれに担当を付け、組織を作って全社員で、全世界を相手に対応しなくてはなりません。

でも、亀田製菓は日本の亀田製菓ではない。日本の米菓のリーディングカンパニーではありますがグローバル・フードカンパニーにするには、このままではいけません。

規制や価格の課題など、いろいろレギュレーションの問題があります。しかし最も大きな課題は「人」です。世界相手にちゃんとやれる人がいなければ、世界に通用する商品を作ることも、世界に展開することもできません。

新潟で40年育って、「明日からアメリカのCEOやってください」と言われたらどうします？まず、言葉ができない。更に世界の国々、人達がどんな暮らしの中で何を求めているのかも判らない。私たちの一番の課題はそうした人材の育成なのです。グローバル人材。ダイバーシティプロジェクトと言っているけど、結局、人が決め手になるんです。

私たちはそれぞれがメアリーズ・ゴーンクラッカーズや、THフーズ、亀田製菓の社員であるんです。みんな、現地の会社の社員になっていて、現在、社員数は日本より海外の方が

多いんです。これをどうつなげていくか、それが具体的ににならないと海外でのチャレンジができないのです。

——現在、海外では「亀田」を名乗っていないのですか？

当社の場合は地名の亀田が社名になっていきます。私はこの亀田というロゴに愛着を持っています。ブランド名として国内に知らない人はいないし、創業の心というものもあります。私はこれを世界ブランドKAMEDAにしようと考えています。

世界ブランドにするには他にも色々な制限があります。例えば今、インドで販売しているパッケージに、世界に通用する「グリーンマーク」というのを付けています。これは、インドではすべての食品に、グリーンマークかレッドマークか、どちらかを表示しないといけない。インドでベジタリアン向けのグリーンと、肉が入るレッドです。このグリーンマークなら世界中のどこへでも輸出できます。

——最後に具体的な健康をテーマ



にした、減塩の柿の種やハッピーターンをすでに商品化されていますが、これからの健康を気にする方へのアプローチはどのようにお考えですか。

私どもでは、独自性や持続可能性に特化した「ミライベイカ」の開発を進めています。更に、グループ各社と研究を進めおいしさ・感動に、健康をプラスした「Better For You」というライフスタイルを提案しています。

これまでも、乳酸菌、減塩、ロカボなど、いろんな商品を開発してきましたが、一貫した明確な方針を決めていた訳ではありませんでした。今後は、明確に「健康」を柱にした商品がどんどん出てくると思います。

——これから健康・環境にいい米菓を誕生させてください。本日はありがとうございました。

※メアリーズ・ゴーンクラッカーズ、THフーズは米国の企業で亀田製菓のグループ会社です。

聴く読書

随想

夕やけこやけ



株式会社栗田工務店
代表取締役社長

栗田 浩

最近、小説を聴いている。会員になると対象のビジネス書や小説が聴き放題というネットのサブスクリプションサービスがあり、俳優や声優の朗読でオーディオブックを楽しむことができる。サービス利用のきっかけは目の衰えと時間節約。近眼の人間は老眼になりにくいという俗説を信じていたが、年相応にすっかりと老眼になり、また目がとても疲れやすくなってしまった。1

時間も本を読んでいると目のピントが合わなくなってくる。そんな中、このサービスを知った。当初は話題のビジネス書を移動中の隙間時間に1.5倍速で聴いて時間を節約しようという少々せせこましい使い方をしていた。ある時、新しく書棚を作り、本を整理していたら過去に読んだあるシリーズの小説が目にとまり無性に読みたくなってしまった。私は好きな小説を繰り返し読む癖があるが、ちかごろは貴重な目の能力はもっぱら新しい本を読むことに利用し、好きな本の再読は我慢していた。ふとこの朗読サービスを思い出し、検索してみると、なんとお目当ての小説の配信が最近スタート

したばかりであった。聴いてみて新たな気づきが沢山あった。文字を読んだ時には気が付かなかった登場人物の心の動きや思い、時代背景の機微などをこれまでより深く感じることができたような気がする。朗読する俳優さんや声優さんの力も大きいが、自分の浅い読み方に愕然とした。私はせっかちで、話の筋を追って先へ先へと急いでしまう。これまで如何に字面だけを追った読書をしていたのかと大いに反省した。今はシリーズの続きの配信を待ちつつ、これまで読んだことのない小説を聴いて楽しんでいる。ちなみに小説は1.5倍速ではなく通常速度で聴いている。

編 集 後 記

このたび能登地方を震源とする大規模地震に、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。地震の度に、私は昭和三十九年の新潟地震を思い出します。昭和石油の大火災から逃れて、路上で眠ってしまったのですが、見ず知らずの親切な方の家で朝を迎えました。朝食に出された信じられないくらい美味しかったみそ汁の味は、六十年たった今も忘れられません。新潟は、すぐに復興しました。その資金のほとんどは、見ず知らずの国民が納めた税金です。逆に私たちの納めた税金が、この度の震災で被災された方々への美味しい味噌汁になればと願っています。

特別講演会のご案内

■日 時
令和6年3月2日(土)
13:30 ~ 15:00
■入場料
無料 (お1人様未使用タオル1本以上のチャリティーにご協力ください)
■会 場
ANAクラウンプラザホテル新潟 3階「飛翔」
新潟市中央区万代5-11-20
(駐車場には限りがあります)
■講 師
タレント
山田 邦子 氏
演題
「大丈夫だよ、がんばろう！」
※お申込みが定員(600名)になり次第、締切りと致します。

